

すぎなみNPO・ボランティア元年2002

「環・すぎなみ豊かにいきる」報告書より

中高生等ボランティア体験発表

中高生・大学生及び社会人を対象に、実際に活動したボランティア体験を発表する

2002年10月13日（日）阿佐ヶ谷地域センター

パネラー

Aさん(大学3年) Bさん(高校1年) Cさん(高校2年) Dさん(大学2年)

企画委員

Eさん(大学3年) Fさん(バイトとボランティア活動) Gさん(専門学校1年)

司会

ボランティア体験発表を始めさせていただきます。

告知では、中高生のボランティア体験発表となっていましたが、パネラーの方が高校生と大学生と専門学生ということですので、高校大学専門学生による発表と変えさせていただきます、ご了承ください。

まず流れの説明をさせていただきます。この後、パネラー一人一人に自己紹介と自分の体験発表をしていただきます。その後に、企画委員からパネラーへの質疑応答を行います。その後に会場とのディスカッションということになっております。

会場からのご質問・ご意見に対して、私ら司会、企画委員、パネラー全員で答える形を採らせていただきます。その後にパネラーからの主張、今後どのようなボランティアに関わっていきたいかを、一言ずつもらいたいと思います。最後に司会者が、簡単にまとめをさせていただいて終了とします。よろしくお願い致します。（拍手）

Aさん

大学3年のAです。ボランティア体験としましては、単発的なイベント、障害者施設とか団体が集まった営業会に参加したり、障害者の人達と一緒に山登りをしたりしています。定期的には手肢麻痺の方の泊まりで介護をするボランティアと八王子の障害児施設でお手伝いをさせていただいています。

ボランティアを始めた動機ですが、ちょっと感じが悪いかも知れないですけど、最初は、学校の課題でボランティアを7日間以上するという、学校から言われて始めました。周りの人は『やって面白かった』と言っていたのですが、私は正直言って、面白さが良く分かりませんでした。

丸一日くらい、障害者の方の施設を廻らせていただいたのですが、精神的にすごく疲れて、7日間でノルマが終わったので、これっきりにしよかなと思いました。

たった1週間程度でボランティアはこんなものか、だからもう辞めようという

のも、すごく後味が悪かったので、期間が終わってから、友だちを誘っている参加していましたが、友人から『一緒にボランティアサークルを作ってやろう』と言われて、施設に定期的に行くようになったというのが、やり始めた流れです。

小さい子供のいる施設ですと、名前を覚えてもらったり、遊んでくれとせがまれたり、そういうことが楽しくて嬉しいです。手肢麻痺の人の介護は、動けないので、何をやるにも私がやらなくてはいけないのですが、やった後に『ありがとう』といわれるのは、すごく心に沁みるものになりました。

辛かったのは、自分の言いたいこと、言っていることが伝わらないことで、すごく精神的に辛かったです。

ボランティア体験で得たものは、介護をしていると、介護の技術も多少身に付くので、これから何かあった時に、役に立つことです。

私は障害者の施設に良く行くのですが、最初ははっきり言って『障害者の人はハンディを背負って大変だな』と思っていたのですが、何回も行くうちに、みんな全然ハンディを背負っているという意識がないみたいで、すごくいきいきとしていて、障害も個性なんだなというふうに思えてきました。

自分自身の中では障害者のイメージが変わったと思います。

Gさん

辛かったというところで、言葉が通じないというのがあったのですが、コミュニケーションが大事だと思いますけど、技術的なものを得られたという話もありました。どちらも大事だと思いますけども、どちらを重視していきたいとお思いでしょうか。

Aさん

人とのコミュニケーションや精神的なものが、大事なことだと思います。

Fさん

友だちに誘われてサークルで活動されているということで、興味を持たれて入られたと思いますが、実際に入って見て入る前と、何か印象が変わったことはありますか。

Aさん

障害ってのは、ハンディじゃないのかなというのが。

司会

Aさんと私は大学も一緒に、夏にも一緒にいろいろ実習したのですが、活動してみて、Aさんがすごく活発に活動されていたように思えました。人との接し方がすごくうまいなとずっと思っていて、そういう活動からでてくるのだろうなと思ったのですが、ボランティアをいろいろ経験したから、そういうふうに活動できる、あるいは、そういう性格だからか、どうなのでしょう。

Aさん

初めてボランティアをして、面識も何も無いので、自分から積極的に働きかけていかないと、なにもすることがなくなってしまうので、積極的に話せるよ

うに少しはなったかなと思います。

司会

ありがとうございました。（拍手） それでは、Bさんお願いします。

Bさん

私は、あるサークルに入って、毎週、駅前周辺の掃除をしたり、老人ホームに行ったりしました。なぜボランティアを始めたかという、知り合いの人がボランティア活動をしていて、すごく充実していると聞いたので、私も充実して、たくさんの人と出会っていきたくと思ったので参加しました。

高校に入って、ボランティアを活発にするようになったのですが、中学生の頃は、学校でのボランティアしか参加することがなくて、参加しても、自分から声をかけたり、何か得ようという思いはなかったのですが、高校に入って自分から老人ホームなどに行き、戦争のことを聞いたり、オセロなどのゲームなどをすることで、おじいさん、おばあさんと、私との壁が無くなったように感じました。

私は電車でおじいさんやおばあさんに会っても、一線をおいてしまって、席を譲ることが出来なかったのですが、その老人ホームに行くことで、町や電車で会う老人の方々を、自分の『おじいさん』、『おばあさん』と思えるようになりまし。自分のおじいさん、おばあさんに何かしてあげたいというのは当たり前だし、家族に何かしてあげるっていうのは、ボランティアでもなんでもないとと思うので、私はそういう家族のように思える気持ちを持てたので、ボランティアをやれてほんとに良かったと思います。

今までは、何かしてあげたいという思いは強かったのですが、何かするのが当たり前という気持ちに変わってきて、しなきゃいけないという義務感から、自分のおじいさん、おばあさんだからやりたいという思いが出てきました。老人ホームでも、自分から積極的に話していきたくし、おじいさん、おばあさんと一緒に散歩をしたりすることで、当時のいろいろなお話を聞いて、私も勉強になることがたくさんありました。

ボランティアをしていて楽しかったことは、話がとても面白くて、戦争の話聞いてすごく感動したり『16歳なんです』といったら、『16ならもうお嫁にいかなきゃね』という話をしたりしました。オセロをやっている『あなたは弱いから楽な気持ちでやれるよ』と言われて、私は、おじいさん、おばあさんが、そんなにオセロが得意だとは思ってなくて、手を抜いてやっていたら、すごく強くてびっくりしました。

辛かったことは、大したことではないですが、おじいさんと会話をしていて、会話に行き詰まってしまって、どうしようかなと思ったことですが、今はそれを乗り越えられて、自分から何かいろいろな話をしたりできるようになったので、楽しくボランティア活動をやっています。

駅前の掃除は、自分から『おはようございます』と声をかけると、すごい笑顔で『ありがとうね』と言ってくださる人がたくさんいて、その人の笑顔を見たりすると、もうちょっとがんばってゴミを拾ってみようという思いがでてきました。以前は、自分はこんなところまで行ってこんな汚いゴミなど拾わないなと思ったのですが、今は自分の家を掃除するみたいに、掃除をできるようになりました。

私は今までボランティアをすることは、何か人にしてあげたいという思いがあったのですが、今はボランティアをするのは当たり前で、自分の家族に接するような気持ちでボランティアをしています。みんながそう思っていけば、争いもなくなると思います。家族ってというのは一番身近な存在だし、みんながそういう気持ちでボランティアをしていけば、また違った出会いとか、家族のような深い絆が出来るようになったので、これからも私はそういう思いで、ボランティア活動を続けていきたいと思っています。(拍手)

司会

Bさんの所属しているサークルについて、内容の説明をお願いします。

Bさん

私は、最近入ったのですが、先にCさんが入っていて、活動は、毎週の駅周辺の掃除で、フリーマーケットには私は参加したことがありませんが、そういう活動をしています。

司会

次は、Cさんをお願いします。

Cさん

高校2年生のCです。Bさんと同じサークルに入っています。

自分が入った理由というのは、大学生のお兄さんが『ためになるよ』といってくれて、自分自身も漠然と、ボランティア活動はしてみたいと思っていたので、この機会を逃したらもったいないなと思って、勇気を振り絞って入りました。

活動は、毎週日曜日の朝に駅前の掃除をしています。他には、老人ホーム訪問と、サークルの活動資金を作るフリーマーケットをたまにしています。12日はフリーマーケットと掃除をやりました。

最初は周りの人の目が気になって、恥ずかしいと思っていたのですが、Bさんみたいに、挨拶とか忘れないでして『おはようございます』と言うと、『おはようございます』と笑顔で返してくれて、なおかつ『がんばってね』とか『今度私たちも一緒にやらせてよ』とか言ってくれるから、すごく励ましてくれて、自分自身にとってすごく嬉しくて、こういう応援の言葉を聞くと、駅前の人たちが好きになったりしました。この人たちのためならがんばろうかなと、思えるようになりました。

フリーマーケットに関しては、一応、ただ売るだけではなくて、お客さんに売る時に、買う人にも自分たちは奉仕活動したという思いになって欲しかったから、自分達は儲けたお金で奉仕活動をしていくことを、きちんとアピールしています。そういう思いを多くの人が、奉仕活動を一緒にしている思いになったし、買った人も、ただ買うだけじゃなくて、自分も奉仕活動のために『これを買って良かったな』という思いに達してもらいたいと思います。

そういう思いでがんばっていくうちに、『がんばってね』と言ってくれるし、その人たちも、自分も奉仕のためにしたという、満足そうな顔で買っていた時に、隣のフリマ出していた人が応援してくれて『いいことしてるね』とってくれたから、すごく嬉しかったです。

辛かったことは、ほんとに恥ずかしかった、最初は恥ずかしくて、だけどやっていくうちに、いいことしているし、本当にみんなが応援してくれるし、嬉しくて今はがんばっています。フリーマーケットで集めたお金をまだ使っていないので、買ってくれた人のために、またそのお金をきちんと奉仕のために使おうと思っています。

自分たちのサークルは今年始まったばかりですけど、本当にみんなやる気があって、夢もでかくて、本当に自分たちも楽しくやっているの、どうぞよろしくお願いします。終わります。（拍手）

Eさん

Cさんは今サークルに入っているということですけど、入る前は何かボランティア活動したことがありますか。

Cさん

学校で老人ホームに行ったぐらいです。

司会

ありがとうございました。最後にDさんお願いします。

Dさん

大学2年のDです。私は中学生の頃に、募金活動とかちょっとしたボランティアを児童館で行っていたのです。それはボランティアというよりも、友だちと一緒に何かをすることが楽しくてやっていたので、私も学校の課題だったのですが、本格的なボランティアは高校3年生の夏に、課題で出されなければ、私はこの存在を知ることもなく、今ここにもいないと思うのです。

子どもが好きで児童学科に通っています。高校3年の時も保育を選択で取っていて、その課題で夏休みにボランティアをなささいということでした、それは必修ではなかったのですが、自分もやって見たいと思ったので、参加させていただきました。

何日くらい入ろうかなって思いましたが、ボランティアセンターの方に聞いて

たら、長くても5日だといわれて、お願いしました。始まってみたら、5日間があっという間で、もっと長くやりたかったなと思って、今は休みに保育園などでアルバイトをするようになっていきます。

楽しかったことは、やはり子供とのふれあいが大きくて、自分自身好きでやっていることなので、辛かったことは特にはないですけど、子どもとの別れが、ちょっと辛かったです。

活動を通して、保育園以外に、いくつか子供に携わるボランティアをしているのですが、その活動を通して将来、夢であった職業に就きたいという気持ちの方がより強くなっています。

今年の夏は、アルバイトがあったので、ボランティア・セミナーに参加できなかったのですが、今年は中学1年になった妹を連れて、こちらに伺わせていただきました。妹は老人ホームみたいなところへ行ったようで、すごく充実した夏休みだったそうです。現在は学校やアルバイトの関係で、あまりボランティアはできていないのですが、これから暇を見つけてやっていきたいと思っています。以上です。（拍手）

司会

今年は妹さんとボランティア・センターにこられたのですが、私が受付やって、妹さんには、『ふれあいの家デイサービスセンター』を紹介したのですが、ご姉妹ですごいなと思って受付をしました。お姉さんの影響もあるのかなとその時思いました。保育園、子どもの関係に興味があるということですが、他にやって見たいことはありますか。

Dさん

先ほど言おうと思っていたのですが、幅広い範囲でのボランティアを、これからはしたいと思っています。

司会

ありがとうございました。それでは発表は終わりです。次に、企画委員からパネラーに対して質問になります。

Eさん

Cさんに質問があります。

ほんとうに楽しくボランティアやっていることが、なによりもいいなと思いました。みんなやる気もあってまだ1年目のサークルということで、これからいろいろやっていけると思います。でかいその夢はどんなのかなと思ったので、今のその活動だけに限らず、将来的にでもいいし、これからボランティアの活動をどうしたいのか、是非でかい夢について話してください。

Cさん

最初の夢というか、近いうちには地域の人たちとも一緒に、もっともっと交

流して、お祭りなども一緒に企画やそういう雰囲気でもっと密になっていきたいです。近いうちには、やっていきたいのはいろいろあって、幼稚園や保育園とか、小さい子どもが結構好きだし、そういう子たちとなんかやりたいです。

世界にはすごく苦しんでいる人もいるし、ニュースで訳も判らず爆弾を落とされる人とか、それで家族とか失う人とかを見るから、とりあえずただ漠然と世界へなんとか出来たらいいなと思っています。もっともっと大きくなって、その人達の為にいろいろ出来たらいいと思いますし、今度はその人たちと奉仕活動していったらいいと思いました。そういうのが私のサークルのみんなが思っている夢です。

Gさん

今、BさんやCさんがサークルで活動されていて、そのサークルの活動も活発でとても素晴らしい活動だと思うのですが、Aさんも友だちに誘われてサークルに入られたということで、先ほどもサークルでいろいろボランティア活動を通じて得たものがあったと思うのですが、直接の福祉ボランティア経験以外にサークル活動で得たものというのはなんですか。

Aさん

私は今3年生ですけども、1、2年生の、自分より下の学年でも、年齢は私より上の人もしゃるんですけども、そういう人たちと幅広い人間関係を今までよりつながりを持って、サークル活動で人が集まって、それなりに自分から話しかけて、働きかけて行かないと、人間関係はできないので、積極的にいろんな人に話し掛けられるようにもなりました。そのサークルのおかげで大学生活は楽しかったです。

Fさん

皆さんに質問ですけど、ボランティアを行う前と、ボランティアを行った後で自分はどの様に成長したとか、あるいは意識するようになったこととか、あったら教えていただきたいなと思います。

Aさん

私は自分が成長したかは全然わかりませんが、ボランティアするのも、はっきり言うと、誰かのために何かをしたいというのではなくて、自己中心的かも知れませんが、自分の世界を広げて見たいなと思っていましたので、そういった面でいろいろものごとに目を向けて、アンテナを張るようにできるようになったと思います。

Bさん

ボランティアをするっていうのは、高校生では友だちに、何かしようとか、落ちているゴミがあったら普通に拾ったりしたら『なに、どうしたの』と、そ

ういう風に言われるのです。私は、『何かやらなきゃいけない』という気持ちだと、それは絶対できないことだし、『やりたい』っていう思いが、すごく中学生の時よりは強くなりました。

どうしてかは分からないですけど、私は、たくさんの人に今までそういうふうにやってもらってきたので、何かしたいと思ってやれました。さっきも言いましたが、いろんな人が他人ではなくて、自分の家族のように思えてこられたことが一番成長できたと思います。

Cさん

やっているうちに、ボランティア活動と友だちと遊ぶ日が重なったりすると、最初は悩んだけど、今は普通にサークルの活動をやってきて、自分のことを削って頑張っているなど、何かのために頑張っている自分が発見できたというのが大きいです。

Dさん

小学生くらいまでは、家の中にいたり、あまり行動的ではなく、地味な遊びをしていたのですが、中学で友だちと一緒に児童館のボランティアをして、サークル系でだんだんこういう外に出るようになっていきます。その時に同じ学年だった子は、ちょっと住む世界が違うというか、派手な子になって連絡を取ったりしていないのですが、2歳下の女の子が、見かけると声をかけてくれて、この前も、青山にある「子どもの城」というところで、アルバイトをしているのですが、声かけてくれて嬉しいなと思っていました。そういう学年を越えた仲間を得られたと思います。

司会

次は、会場との質疑応答になります。会場の方からの質問に対して私ら全員で、いろいろがんばって答えていきたいと思います、質問ありましたらお願いします。

質問1

私は杉並区役所のNPO担当の仕事をしているのですが、杉並区では、今年から知的障害者にガイドヘルプ事業を始めました。その事業は、知的障害を持っている方が、外にお出かけする時に、ガイドヘルプしてくださる方と一緒に、お出かけするという事業です。そのガイドヘルプの事業で、ヘルパーさんをなさる方は、どちらかと言いますと中高年の方が多くですけど、一緒に出かけたいと思う人は、若い人と一緒に出かけたいという思いがあります。

例えば、若い方と一緒に買い物に出たりとかカラオケに行きたいとか要望があるので、ガイドヘルプの講習会もしています。高校生の皆さんは無理かと思いますが、大学生の皆さんですと、そういった講習会を受けていただいて、ヘルパーさんになっていただけたらいいと思っているのですが、企画委員の皆さんも含めてそんなことにご興味はありますか。

司会

それでは代表して誰か。

Eさん

興味はあります。

質問者

ヘルパーの講習会等が、例えばこの時期だと、皆さん出やすいというのがあったらお聞かせいただけますか。

Eさん

やはり休みとか。

質問者

夏休みなどですか。

Eさん

長期で休みになると、大学生は時間がいっぱいとれるので。

質問者

夜間はどうか、やはり長期の休みに設定して呼びかけるといいですか。

司会

休みだと思つとみんな何かやろうと思つのではないのでしょうか。2ヶ月くらい夏は休みがあるので、遊んだら何かやっておこうかなと思つたりもあるので。

質問者

そういった講習会の情報も、センターの方で情報発信いたしますので、皆さんも興味を持っている方は、どうぞ意識的に情報収集をよろしくお願い致します。

司会

他に何かありませんか。

質問2

途中から参加したのですが、私が感じたのは、司会やパネラーの人が、すごく嬉しそうだな、若々しいなと、全員高校生かと思いました。

奉仕を通して、やはりいろいろ得る物が大きかったのかなと思うのです。いま私が考えていた質問と、企画委員の方が質問したのとかぶりますけど、企画委員の方にももちろん聞いてみたいのですが、奉仕を通して自分は『これから何をしてみたいのか』を伺いたいのですが。

司会

パネラーにはこのあとすぐ『これからどうしていききたいか』という意思表示の時間があるので、このなかから誰かを選んでもらつて。

質問者

司会の方に。

司会

私、大学の福祉学部に入ってから、正直それまで何もやった事が無かったです。Aさんと一緒に、最初に課題で行ってこいというのがあって、いろいろ回ってみて、今は専攻として、高齢者福祉にいるのですけれども、いろいろな人と接して、同じ人間なのだとすることを一番感じたのです。

ほっといて欲しい時は誰にでもあるだろうし、最初に入ったばかりの時は『助けてあげなきゃ』とか、『なんかしてあげなきゃ』ばかり考えて、ただ探して探して『あっ困っている人がいる』って感じていましたけど、いまは『困っている』っていう見方がただ障害があるのは、『困っている』のでは無いのかなという、あまり言葉がうまくいえませんが、そういうふうに思えてきて、相手がどう考えているかというのを重視して自分の対応が変わって行くと思います。

特に私は学部がそういうところなので、知識もあるつもりなので、これから一番変わっていきたい部分は、関わり方だと思います。どんな人とも肩肘はらないで、びくびくしないで、自然なままで接する事ができればいいなと思っています。

司会

何か他に質問はありませんか。

質問3

今までのお話を伺いますと、ボランティア活動を行って、自分でどのように自覚しているか、位置づけているか、二つの側面があるように思います。周囲の人からえらいって言われて、素晴らしいって言われて嬉しいって思える人と、ボランティア活動は、言い換えれば自分のためになっているのに、そんなことを言われるのは嫌だというもうひとつのパターンがあるのではないかと感じました。

皆さんの年代ですと、一般的にいう『遊び』の方に興味が向かう方も多いと思うのですけれども、それをしないでボランティア活動をしようとしている訳で、それに対して感性が素晴らしいと思っています。

ひとつ聞きたいのは、もしも、周りの人に偉いといわれた時に、それに対して嬉しいのは嬉しいでいいですけど、もし嬉しくない人の場合はどうやってそれを相手の人に説明しているのか、私は自分の為にやっているから、偉いと思ってやっている訳ではないなど、いろいろ表現があると思いますけど、それをまず聞きたい。判りますか。

司会

ほめられる事に対しての抵抗ということですか。抵抗を感じる方の意見。

質問者

そうです、抵抗です。

Aさん

「えらいね」と言われても、別にそれは違うかな、私は自分のためにやっているし、いろいろな経験をしたいのでやっているということを直接伝えます。

Eさん

えらいと言われること自体、えらいと言う人は、ボランティアは特別な事で、特別なことはえらいという意味で使っているとしても、ここでさっきのパネリストの主張を聞いていると、そういう特別なものとしてではなくて、高校生でもやりたいことを当然のこととしてやっている。

私自身は、えらいと言われる分には抵抗はありません。えらいと言う人たちがボランティアに対して、そういう『特別なこと』という理解で留まってしまっている、自分が一步そこにはなかったとみなされるものとして捉えてしまっていることに対して残念です。

えらいと言ってくる人には、そんなにすごいことではなくて、実際にえらいと思うことをその人にもやって見てください、その正しい理解を持って欲しいという思いがある。抵抗というものではなく、ただ理解して欲しいと思います。

質問者

Bさんの、家族のような思いという感性が、私は素晴らしいと思います。もしかしたら環境的に恵まれているのかと思いますけれども。自分がえらいと思われるのが嫌だとか、抵抗を感じない、嬉しいと思える。それからまたボランティアしようと自然と思える。人の為にして人の喜ぶ姿を見て、自分も嬉しいと思える。そういう感性は、どこから得られたと思いますか。

Bさん

私は、喜んでいる姿を見て自分も嬉しいと思うのではなくて、人が喜んでいる姿を見るというよりも、まず自分がそういうふうにするのが嬉しい。やりすぎてしまうと、迷惑な時もあるかもしれないけど、自分は何かしたい。

友だちと笑いながら、そういうことやると『ありがた迷惑とか、そうなる時もあるよね』と、話をする時もあります。それでも私は今までそういう風にやってきて、家族や兄弟にやって貰ったから、そういう思いがある。

Cさん

家族も自分の為にしてくれるし、自分の周りも自分の為にしてくれるし、そんなのを見ていると、そういう風な事を自分もしたくなると思いました。

司会

他に質問。はいどうぞ。

質問4

今までのお話で、皆さんはたまたまきっかけがあってボランティア活動を始めることになった、そして活動を通して得られたものはご自身でも満足されている素晴らしいものだったことがわかります。きっかけの機会を広げればもっ

と多くの方が皆さんのような素晴らしい経験をできるのではないかと思います。この点についてはどのようにお考えですか。

Gさん

ボランティアに対するきっかけとしては、何人かの人も言われていましたけれど、最初は学校の課題ですとか、学校が課題として出したボランティアを、それが本当のボランティアかという難しい問題だと思いますが、どのようなきっかけで始めたボランティアでも、それはそれで意味は持つものだと思いますし、きっかけとしてはそういうものでもよいと思います。

司会

私は今年5月から、前のボランティアセンターの場所で、社会福祉士の実習という形で、夏のボランティアセミナーのチラシをいろいろな学校に配ったりしていました。私が高校の頃には、学校でボランティアの聴講など全然無かったので、今年いろいろ送ってみて、何十枚と送っても、妹の通っている学校にも送りましたが、『見た?』と言ったら『見てない』と言われて、だから学校で止まっちゃっているのかなとその時すごく感じました。学生が集まるところが学校だと思うので、学校で情報を流すのが1番多く情報が入るのかなと思いました。

学校でももう少し対応を良くして貰えれば、ボランティアをやりたい人も、その情報を貰えるのではないかなと思いました。

Eさん

どうやって知らせるのか。私は大学でボランティアサークルをやっています。最初はボランティアに関心のある若い人は少ないかなという思いでやっていました。実際に募集しても、人はたくさん集まらなかったです。今はインターネットの掲示板で、ボランティアのトピックスで活動参加者募集の掲示板を立てると、結構いろいろな人が関心を持って参加したいですと言って来たりします。

ただ漠然と『ボランティアやりましょう』という話をすると、なかなかその人には届かないですけど、1番いいのは知人友人の関係で、友だちとの関係でとか、口コミといったら変ですけど、集まってきます。

実際に体験した人の経験談などを聞く場があると、知人友人ならそれでいいですけど、実際に携わる人が、もっと自分自身から発信していくという気概があるといいなと思います。

私は経済学部ですけど、ボランティア活動をやっている出会う大学生はほとんどが社会福祉系の、そういう関係の人しか来ていなくて、それはなんでかと思った時に、どうしても『ボランティア』って固定したイメージがあると思うのです。そういう人達しか関われないような。

例えば経済を専攻している人には、どう関わっていくのか、今までのボランティアの考えだと、仕事に行ってそれでお金を稼いで、『余った時間とお金の

間で自分が出来ればやる』というそういう発想だと思うのです。そういうボランティアの概念を少し変えてみる。

例えば今、私の大学には『アクトプログラム』という、経済系のサークルがあります。そこはプログラムプロジェクトを起して、それを実行して成功させていくという、ビジネスを勉強するようなサークルです。そこが一つやっていることで、『サタデースクール』、今度から学校が土曜は休みになって、そこで子供達になにか自分達が教えられるのではと、そういう有志を集めています。実際にそのサークルに集まる人は、純粹にボランティアをやりたいという人もいれば、そのプロジェクトをマネジメントして実際に成功して、事業を成功させたいとやって来る人もいます。

そういういろいろな思いを持った人が関われるような、今までと違った、上手く説明が出来ないですけど、社会福祉専攻者しか来られないのではなくて、もっといろいろな人が関われるものだというのが認知されていけば、もっと参加者が増え、特に若い人が増えるのではないかなと思います。

Fさん

大学生ではないですけど、知人に紹介して貰って、ボランティアのサークルに入っています。今、Eさんも言っていた、その『サタデースクール』というので、地域に直接足を運んでいろいろかけあって、町内会の人達に情報を流して、自分達が提示していけばいいと思います。今日も児童集会に行き、年齢は小学校ですけど、いずれは中高生など、そういった教育的なところに呼びかけていこうと思っています。

私達が考えているのは、中高生達に教育するという上で、呼びかけていきたいので、地域に根ざして、いろいろな地域の特色とか、そういうことを活かしていきたいと考えています。

質問5

やっている動機、もしも動機が変わったり、今どういう意識でやっているのか、聞かしていただいたと思うのです。ボランティアをしながら、これからの目標、ボランティアを通して、どういうことをしていきたいか、あるいはボランティアの可能性について、どういう意識を持っているかを、ボランティアをやることによってどういう可能性が広がっていくのかということをお教えください。

司会

今どういう気持ちで活動しているかということと可能性ですか。

質問者

ボランティアの可能性。ボランティアを通して何がどういう風にならなくて、自分自身や周りでもいいし。

司会

私は高校まで普通科の付属高校なので、そのまま大学で、福祉学部に入る時に父親に結構嫌がられました。でもやりたいことをやらせて欲しいと、入った感じでした。自分がボランティアやりだしてからは、以前は家族中そういうことに全く関心が無かったですけど、もと看護婦の母親が、いま入浴サービスをしていたり、家族内だからちいさい範囲ですけど、福祉ということに関心を持てるように、それを受け入れられるように、家族もなってきたと思いました。

だから身近に誰かそういう携わっている人がいれば、知らないうちに『ほわん』と広がっていくものと思いました。その広がっていくということが、可能性になるのかなと思います。

Bさん

私は高校生なので、ボランティアを通して、学校を変えて行けると思う。私は、ボランティアを通して一つの家族だと思っているので、そういうことをアピールしていきたい。外に目を向ければ、ボランティアを通してなら、世界の国々の人と一緒に奉仕することが出来る。言葉が通じなくても、巻き込んで奉仕活動が出来ると思うので、ボランティアを通して、いろいろなことを変えていったり、もちろん良い方向に導いて行けると思うので、可能性は限りないと思います。

司会

ほかに何か質問がある方いらっしゃいますか。

質問6

友だちにどうボランティア活動をしているのかを、説明しているというお話があったのですが、今年、私もこちらのボランティアセンターでのセミナーに活動を提供させていただく側の責任者として、知的障害者の方との交流という形で、高校生、大学生を対象としたものも、企画を考えさせていただきました。その時に私自身はずっとボランティアとして、紹介者の方とずっと接してきて、知的障害者の方々と接することが楽しいことであるという風に、自分にとっても為になるということは知っている。

それを初めてボランティアされる方に、どう伝えていけばいいのかなと考えて、その日は、とりあえず楽しんで貰うということを考えました。みなさんボランティア経験をされてきた中で、また新たにその仲間が増えて来るかと思うのです。そういう方に対して、どのように接しているかということ、聞かせていただきたいなと思います。

Eさん

この生活の楽しさ、喜びを伝えるのが一番だと思います。やっていく中で辛いことや、苦い体験もあると思います。先ほどの話を聞いていると、まずその『楽しい』とか『嬉しい』とかそういう思いがあって、その動機で活動していく中で、もちろん恥ずかしくなったり、上手く話せなかったり、それは楽しいと

か充実感を求めることが、簡単にではないけれど乗り越えていけるもので、誰かを誘ってした時に辛い思いをするかもしれないし、やな思いをするかもしれないです。でもそれは置いておいて、まず、楽しいという表現が良いのか分からないですけど、楽しいということをお伝えします。

司会

私も今の考えは良いと思います。やったことがない人を誘うのなら、その人の適性のようなこと、やって見て入り込める人、向いていない人というと思うので、とりあえず楽しいよと入れてしまうのも手かなと思います。友だち同士なら私はこれだけ楽しんでいると、一緒に活動してみて、友だちが活動に合えば、続けられればいいし、駄目ならほかのことにというのも出来ると思います。

関心あるから来る人だけではなくて、関心を持たせる為に何かするのも大事だと思います。やり方的には多分、強引になるのだと思いますけど、友だちだから許せるという入り方で誘っていけば、また他の友だちが入ってくるというようなことにもなるかなと少し思っています。

司会

ほかに質問ありますか。

それでは最後のステージに進ませていただきます。パネラーからの主張としまして、パネラーの方に今後こういった形で、ボランティアに関わっていききたいかを一言ずつ貰いたいと思います。順番にお願いします。

Aさん

ボランティアはちょっと出来ないかなと思います。今、少し個人的な課題を抱えていまして、自分の精神状態が良くないと相手にも不快な思いをさせてしまう。ボランティアは時間的な余裕があってする余暇活動ではないかと自分では思っています。また時間的、精神的余裕が出来たらしていきたいと思えます。

Bさん

私もボランティアを最近になってしていて、自分でも学校の勉強もしなければいけないので、ボランティアたくさんしていると勉強がおろそかになるかなと思う時もあります。自分の学習した内容を、ボランティアにどういう風に活かせるかというのを考えていきたいし、他人に自分が勉強したことや、何がしてあげられるかを考えて辛い時があります。ボランティアをやりたい、でも勉強もやらなくてはならない、自分が大きくなってどういうふうに貢献できるか、ということを考えて自分の一生をかけてボランティアをしていきたいので、今は、勉強もボランティアも両立できるようにがんばってしていきたいです。

Cさん

勉強をきちんとしないとみんなも不安になるし、いろいろ描いている夢はとにかく大きいので、ボランティアの仲間は仲がいいし、もっと環を広げていきたいなと思います。

Dさん

いままでボランティアを多くしてきた中で、いろいろな方と知り合えたこと。この前テレビを見ていた時に、こういうボランティアがあったらいいなと、思ったものがあって、それをちょっと考えていきたいと思います。

不治の病にかかってしまった子どもに、母親が秘密の友だちとして手紙に気持ちを書いて交換する。その子は結局亡くなってしまいましたが、普通よりも長い時間を生きたということでした。小学生から手紙が来てそれをすごく喜んだのです。そういうボランティアを小学生とはいわず、いろんな範囲の年齢で、そういう心の交流のボランティアがあったらいいなと思います。

司会

ありがとうございました。最後は司会者のまとめです。

私が司会者でしたが、緊張もあり進行が悪かったので、言いたいことがうまく伝わったでしょうか。今の若い方といういい方はまずいかもしれませんが、私らぐらいの世代が何を考えているか、どういう思いでボランティアをしているのかを知って貰うっていうのが、今回の主旨だったと思います。

それは伝えられたかなと思っています。ボランティアを始めたきっかけが、友だちがなにかやっているから、学校の課題でなど、自主的にやり始めたようではないけど、今はみんな自主的にしていることを今日は感じました。

入り口はいろいろありますけど、入ってみないと分からないのかなと思います。いろいろ考えていることが今日は伝える事が出来たと思います。